

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機 関 名	政策研究大学院大学	整理番号	U01
プログラム名称	グローバル秩序変容時代のリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	園部 哲史	プログラム コーディネーター	木島 陽子

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

[総括評価]

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

[コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、チュートリアルによる小人数教育に各教員がかなりの力を入れており、学生の満足度も概して高い。また、学生に対する評価において、評点だけでなく教員からの具体的なコメントを付している点も評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、インターンシップの実績がまだ乏しい。公的な国際機関だけでなく、企業へのインターン派遣のルート、NPO や INGO（国際非政府組織）へのキャリアパスの開拓にも取り組む必要がある。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、プログラムコーディネーターがプログラム責任者を兼ねていた問題に対し、プログラムコーディネーターの交代で解決する方針を決定したことは評価できる。

優秀な学生の獲得については、日本人学生比率が過少であるという問題が改善されていない（日本人学生数は、平成 26 年度の 12 人中 1 人から平成 27 年度には 3 人と上昇したが、平成 28 年度は再び 1 人に戻っている）。日本人学生をグローバルリーダーとして養成するためだけでなく、留学生が日本人学生との接触を通じて日本への理解を深めるためにもこの問題の解決は急務である。また、中央官庁のキャリア官僚を本プログラムに惹き付ける努力も必要である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、論文審査と総合審査の二本立てで質保証を図っている点は評価できる。ただ、他大学で修士号を取得済みの学生やキャリア官僚など、優秀だが五年間の在学が困難な学生のために学位の質を保持しつつ、学位取得の過剰負担を軽減する更なる工夫が望まれる。

事業の定着・発展については、学生への給付が累積的に増加する分、人件費が毎年大幅に減少するという構造的な財政問題が既に現出しており、支援期間終了後の財政的持続可能性が危ぶまれる。そのため、新たな財源調達だけでなく、奨励金が削減されても優秀な学生が応募してくるような、奨励金以外の誘因を高める努力が必要である。